

宿でチェックインを済ませたら、いざ温泉へ!その後は、今回の旅の一番のお楽しみ カニ三昧の夕食です。もちろんカニのお刺身に天麩羅もイッパイ!ホクホクのカニの足を思いっきりほおばって幸せ気分もイッパイです。お腹が膨れたら、再びワンちゃんとお散歩に出掛けてみましょう。空気がきれいなので、満天の星空があなたを出迎えてくれるでしょう。朝昼晩とそれぞれに違った美しさを見せてくれる天橋立を満喫出来るに違いありません。

さて、旅先でハイ・テンションになるのは人間だけではないようです。興奮したお馬鹿な犬のせいで、私達には思わぬ悲劇が待ち受けていました。愛犬びーちゃんと夜の散歩に出た私。近くをひと回りして戻って来た時、びーちゃんは何を思ったのかいきなり一目散に猛ダッシュ!彼の走り行く先には、幅1mくらいの溝が立ち塞がっています。溝のふちまで行ったびーちゃんは急停止!こちらを振り返って何故か「にやり」と私に不敵な笑みを見せたその瞬間!嫌な予感がして「びーちゃんダメ!!止まれ!!」と叫んだけれど間に合わず、彼は地面を蹴って向こう岸へ華麗にジャンプ!いえ、ジャンプしたつもり…でした。

びーちゃんは、短足で太目のシェルティ。助走もなしにそんな溝を飛び越えられるはずがありません。当然のこと、ドロドロに濁った溝の底へと真逆さまに落ちてしまいました。

ビックリして泥の中で固まったびーちゃんを叱咤激励しながらなんとか引っ張り上げ、洗い場まで引きずって行って、頭からズッポリ泥まみれになった体を、ぎんぎん叱りつけながらの全身シャンプー。もちろん私だって泥だらけ。予想外の失態と叱られたダブルショックで自信喪失してしまった可哀想なびーちゃんは、朝まで落ち込んでしょげまくりでした。

いつもと違った愛犬の意外な面を見せつけられたりして、そんな面白さや失敗もあるワクワク犬連れ旅行。皆様もぜひどうぞ!



わたしの本棚 ～猫の話・犬の話・動物の話～ **第二弾【紹介者ノリちゃん】**



1 「トラヤ」 南木佳士著 (文芸春秋刊)

書店で、表紙のシンプルな装丁に魅かれてこの本を手にした。そこに描かれた1匹の猫の後ろ姿も印象的だった。「帯」にはこう記されている。「うつ病に苦しみ、老父の介護に疲れた 私のもとへ現れた子猫。廊下で鳴いていた。トラヤ、ともに生き、生き延びてきた 十五年をここに 記そう。」

臨床医でもある南木氏が、家族と、また家族の一員となった「トラ」と共に過ごした日々を綴った書き下ろし作品。ひとりの医師が真摯に命と向き合う姿に、静かな共感がわきあがってくる。そして、そんな氏に寄り添うような小さな生き物のぬくもり…。おススメです。



2 「作家の猫」 (平凡社)

猫の写真集は数あれど、その中で一番「文学的」なのがこの一冊。裏表紙の、火鉢に手をかけて暖をとる、室生犀星の愛猫の写真は何とも微笑ましい。その姿をやわらかい表情で見守る犀星…。夏目漱石、南方熊楠、谷崎潤一郎、藤田嗣治、大仏次郎、稲垣足穂、幸田文、池波正太郎、田村隆一、三島由紀夫、開高健、中島らもなど、猫を愛した作家と作家に描かれた猫たちのアルバムで、とっておきの瞬間が満載。巻末に「猫の名作文学館」として猫好きのための、猫好き作家による名作文学が紹介されている。文字通り、猫&文学好きにはぜひおススメしたい一冊。



3 「猫島ハウスの騒動」 若竹七海 (光文社文庫)

上記2編とはまったくちがうテイストの本編は、いわゆるコージームステリーと呼ばれる長編推理小説。葉崎市という架空の海辺の町(島)を舞台に殺人事件が発生。謎解きも面白いが、個性豊かな登場人物、微妙にからまる捨て猫や地域猫の問題。軽く楽しめて、ちょっと考えさせられるおススメの一冊。